

資料 2

三重の子どもたちのスポーツの推進について

平成31年2月4日

三重県教育委員会

## 《目 次》

### 三重の子どもたちのスポーツの推進について

#### 1 三重県スポーツ推進条例・推進計画

- (1) 三重県スポーツ推進条例…………… 1
- (2) 三重県スポーツ推進計画…………… 1

#### 2 現在の取組

- (1) 「体育」・「保健体育」について…………… 1
- (2) 運動部活動について
  - ①部活動の現状…………… 2
  - ②指導者の育成…………… 3
  - ③外部人材の活用…………… 3
  - ④競技力の向上…………… 3
  - ⑤特別支援学校での取組…………… 3
  - ⑥部活動ガイドラインの策定…………… 4
- (3) 地域における子どもたちのスポーツ環境…………… 4

#### 3 インターハイの開催

- (1) 県内高校生の活躍…………… 5
- (2) 大会運営…………… 6
- (3) 経済効果…………… 6

#### 4 子どもたちのスポーツを取り巻く状況の変化と今後の取組

- (1) 「体育」・「保健体育」について…………… 6
- (2) 運動部活動について…………… 7
- (3) 競技力の向上…………… 7
- (4) 2018 インターハイのノウハウを生かした全国中学校体育大会の開催…………… 7
- (5) 地域における子どもたちのスポーツの推進…………… 7

## 1. 三重県スポーツ推進条例・推進計画

### (1) 三重県スポーツ推進条例

本県では、平成26年12月、スポーツの持つ価値を最大限に活用し、県民の自主的かつ主体的な参画を得ながら、スポーツを通じた人づくり及び地域づくりを推進し、県民がスポーツの価値を広く享受し、県民の力を結集した元気な三重県をめざした「三重県スポーツ推進条例」を制定しました。

### (2) 三重県スポーツ推進計画

平成27年3月に、スポーツ推進の取組を通じて、本県のスポーツの競技力向上が図られ、本県選手等の活躍により県民の皆さんに夢や感動が育まれているとともに、県民の皆さんがスポーツに触れることを通じてスポーツを「する人」、「みる人」、「支える人」が拡がり、「県民の力を結集した元気なみえ」の実現をめざし、7つの施策を示しています。

- 推進施策1 子どもの体力向上とスポーツ活動の充実
- 推進施策2 地域におけるスポーツ活動の推進
- 推進施策3 競技力の向上
- 推進施策4 障がい者によるスポーツ活動の推進
- 推進施策5 スポーツを通じた地域の活性化
- 推進施策6 施設の整備等
- 推進施策7 大規模大会の開催を契機としたスポーツの推進

## 2. 現在の取組

### (1) 「体育」・「保健体育」について

学校における「小学校体育」、「中学校及び高等学校保健体育」の授業は、子どもたちの運動・スポーツに親しむ資質を育てるうえで非常に大切です。各学校では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生涯にわたってスポーツに親しむ資質を身に付けるための授業を展開しています。

県教育委員会では、スポーツ庁主催の研修会に教員を派遣し、教員が学習指導要領の趣旨を踏まえた最新の授業実践を学んでいます。また、同研修に参加した教員が、県内の体育担当教員を対象とした研修会で学んだ内容を伝達する研修会を開催し、各校での取組の充実に努めています。

また、中学校、高等学校の授業では、「体育理論」として、スポーツの文化的な意義やオリンピックの精神など、スポーツの多様な価値について触れる授業が行われています。

特別支援学校では、障がい者スポーツを体育の授業に取り入れ、スポーツに親しむ機会の充実に努めているほか、三重県障がい者スポーツ大会に参加する生徒もいます。

また、平成29年度から県内特別支援学校の高等部の生徒によるボッチャ交流試合を実施しています。

東京オリンピック・パラリンピック大会を控え、小学校および特別支援学校では、東京2020大会のマスコット選定にかかる投票に参加するなど、スポーツへの多様な関わり方について、学ぶ機会を持っています。

・ 体育担当者対象研修会（元気アップ研修会）

小学校 県内8会場 参加者 372名  
 中・高等学校 県内3会場 参加者 240名

・ 特別支援学校ボッチャ交流試合

平成30年12月10日（月） 三重県身体障害者総合福祉センター体育館  
 参加生徒数 8校 91名

・ 東京2020大会マスコット投票参加校数

公立小学校 263校 特別支援学校 15校（分校含む）

(2) 運動部活動について

運動部活動は、スポーツに興味と関心をもつ同好の生徒が、スポーツを通して交流したり、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動であるとともに、体力の向上や健康の増進にも極めて効果的な活動として実施されています。

①部活動の現状

公立中学校の運動部活動加入生徒・指導者数等年次変化

項目 \ 年度		平成30年	平成29年	平成28年
学校数	数	155	155	157
	運動部活動指導者数(人)			
	教員	2,433	2,507	2,530
	外部指導者	200	190	260
	計	2,633	2,697	2,790
生徒数(人)	男	23,533	24,389	24,979
	女	22,455	23,266	23,686
	計	45,988	47,655	48,665
運動部活動加入生徒数(人)	男	19,476	20,514	21,112
	女	14,537	15,198	15,421
	計	34,013	35,712	36,533
運動部活動生徒加入率(%)	男	82.3	84.1	84.5
	女	64.7	65.3	65.1
	全体	73.8	74.9	75.1
設置部数(〇は平均(部))	男子	826(5.3)	837(5.4)	845(5.4)
	女子	778(5.0)	776(5.0)	776(4.9)
設置種目数	計	20	19	20

県立高等学校部活動加入生徒数等年次変化(全日制)

項目 \ 年度		平成30年 (54校)	平成29年 (55校)	平成28年 (55校)
生徒数(人)	男	17,968	18,159	18,480
	女	18,111	18,365	18,749
	計	36,079	36,524	37,229
運動部活動加入生徒数(人)	男	12,345	12,413	12,556
	女	5,855	6,107	5,979
	計	18,200	18,520	18,535
運動部加入率(%)	男子	68.7	68.4	67.9
	女子	32.3	33.8	31.9
	全体	50.4	50.7	49.8
設置部数(〇は平均(部))	全体	714(13.2)	750(13.6)	816(14.8)
設置種目数	計	40	42	42

## ②指導者の育成

運動部活動の指導者（外部の指導者を含む）を対象として、指導力向上にかかる研修会を開催し、指導力向上に努めています。

### ○運動部活動指導者スキルアップ事業（県教育委員会）

部活動マネジメント研修

アンガーマネジメント研修

スポーツトレーナーによるスポーツ科学に基づいたトレーニングに係る研修

※各競技団体も指導力向上にかかる研修を実施しています。

### ○チームみえ・コーチングアカデミーセンター（競技力向上対策本部）

少年種別の競技力向上にむけた指導力の向上を図るため、参加者は年間を通じ、トップコーチから多様な内容を、講義やディスカッションを通して学びます。

参加者 23名 年間 24コマのプログラム

## ③外部人材の活用

指導体制を充実させ、教員の負担を軽減することを目的として、県内の公立中・高等学校へ専門性を有する外部指導者を部活動指導員や運動部活動サポーターとして配置しています。

### ○運動部活動指導員

（中学校） 7市町 11校 13名 （高等学校） 5校 5名

### ○運動部活動サポーター

（中学校） 5市町 5校 5名 （高等学校） 42校 45名

## ④競技力の向上

三重県競技力向上対策本部によるジュニア・少年選手を対象とした取組が進められています。

○高等学校運動部強化指定 30校68部（平成30年度）

○中学校運動部強化指定 4校 4部（平成30年度）

○チームみえジュニア指定 789名（平成30年度）

○チームみえスーパージュニア指定 14名（平成30年度）

## ⑤特別支援学校での取組

特別支援学校におけるスポーツ活動として、県内の特別支援学校6校によるサッカー大会を開催しています。今年度は、東海地区特別支援学校サッカー大会において、稲葉特別支援学校が優勝し、第4回全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権「もうひとつの高校選手権2018」に初出場を果たしています。

また、聾学校の生徒が全国聾学校陸上競技大会や卓球大会に出場し、入賞しました。

平成30年度 全国聾学校陸上競技大会 男子砲丸投げ 2位

平成30年度 全国聾学校卓球大会 女子個人 3位

## ⑥部活動ガイドラインの策定

県教育委員会では、生徒の健全な成長及び教員の働き方の見直しの視点から、休養日や活動時間を含め、適切な運営をめざした指導のあり方を示した「三重県部活動ガイドライン」を平成30年3月に策定しました。

各学校で三重県部活動ガイドラインや各市町の部活動指針等に基づき、「部活動運営方針」を策定し、部活動ガイドラインに基づいた運営を進めています。

平成31年1月22日には、各学校の取組状況をまとめ、三重県部活動ガイドライン取組検証委員会を開催しました。

### ○検証結果

【学校方針に基づく休養日や活動時間の遵守の状況】（平成31年1月）

（中学校）

選択肢	学校数
1：全ての部でできている	106（69.3%）
2：一部の部を除いてできている	14（9.2%）
3：どちらかといえはできている	21（13.7%）
4：どちらかといえはできていない	2（1.3%）
5：一部の部だけできている	1（0.7%）
6：全ての部でできていない	0（0%）
7：今後、学校方針を作成する	9（5.9%）
合計	153

（県立学校）

選択肢	全日制	定時制	特別支援学校
1：全ての部でできている	21（38.9%）	4（80.0%）	8（100%）
2：一部の部を除いてできている	21（38.9%）	0（0%）	0（0%）
3：どちらかといえはできている	11（20.4%）	1（20.0%）	0（0%）
4：どちらかといえはできていない	0（0%）	0（0%）	0（0%）
5：一部の部だけできている	0（0%）	0（0%）	0（0%）
6：全ての部でできていない	0（0%）	0（0%）	0（0%）
7：今後、学校方針を作成する	1（1.9%）	0（0%）	0（0%）
合計	54校	5校	8校

### （3）地域における子どもたちのスポーツ環境

地域においては、「する、みる、支える」など多様な関わりを通して、運動・スポーツに対して親しむ機会を設定しています。

- ・総合型地域スポーツクラブ（県内 64クラブ 27市町 H30.4, 1）  する
- ・スポーツ少年団（635団体 登録団員数 13,109名 平成29年度）  する

・美し国三重市町対抗駅伝 **する・みる**

⇒スポーツに親しむ機会の提供

・国体ダンスキャラバン **する・支える**

→ダンスの普及による児童・生徒のスポーツへの意識啓発

平成30年度 県内40箇所で開催 参加人数 約2,400人

ダンスを運動会で披露した幼稚園5園、保育園1園、小学校4校

・東京オリンピック・パラリンピック フラッグツアー **みる・支える**

オリンピック・パラリンピアンによる小中学校訪問イベント 平成30年9月

○前川 楓さん (パラリンピアン) 津市立朝陽中学校

○野口 みずきさん (オリンピック)

熊野市立井戸小学校、尾鷲市立尾鷲小学校、伊勢市立浜郷小学校

○宮本 ともみさん (オリンピック) 伊賀市立上野東小学校、名張市立美旗小学校

○小椋 久美子さん (オリンピック) 川越町立川越中学校、四日市市立常磐中学校

・東京オリンピック・パラリンピック 事前キャンプ誘致 **みる・支える**

誘致決定

体操競技 (カナダ・四日市市) アーティスティックスイミング (カナダ・三重県)

レスリング (カナダ・三重県、津市)

### 3. インターハイの開催

「翔べ 誰よりも高く 東海の空へ」のスローガンのもと、平成30年度全国高等学校総合体育大会「2018 (にーまるいちいち) 彩る感動 東海総体」を、三重県をはじめ東海ブロックと和歌山県で平成30年7月26日(木)から8月20日(月)に開催しました。

県内からは、競技者として参加する生徒はもちろんのこと、三重県高校生活動推進委員会を組織し、県内の高校、特別支援学校の生徒が総合開会式での歓迎演技や大会参加選手への記念品(ミサンガ)の制作や、大会運営の補助、総合案内所における接客に参画するなど、「する、みる、支える」の多様なスポーツへの関わりを体験することができました。

#### (1) 県内高校生の活躍

##### **する**

今年度、県内からは、32種目に48校772名の選手がインターハイに参加しました。

三重県競技力向上対策本部による高等学校運動部強化指定事業や各学校、各競技団体において強化事業が進められ、入賞数は52件と、平成以降最高となりました。

##### **支える**

県内78校、約9,000人の高校、特別支援学校の生徒が総合開会式や大会運営の補助、おもてなし活動として大会に参画するなど、支える立場から多様なスポーツへの関わりを体験することができました。

#### ○総合開会式

式典音楽、式典放送、選手団先導、歓迎演技・選手激励

### ○草花装飾

各競技会場に設置するプランター、草花による大型立体装飾

### ○おもてなし

カウントダウンボードの作成、総合案内所での接客、物品販売

### ○競技運営補助

投てき運搬車の作成、競技補助員

## みる

小・中学生にとっては、高校生トップアスリートの活躍を間近で見ることができる機会となりました。

### (2) 大会運営

三重県高等学校体育連盟各競技専門部や当該開催競技団体、開催市町の協力により実行委員会が組織され、大会運営がなされました。

また、三重県中学校体育連盟のスタッフも競技役員として参加し、2020年の全国中学校体育大会において県内で開催される陸上競技、サッカー競技に向けて、大会運営のノウハウを学びました。

### (3) 経済効果

選手と監督、コーチ約1万9,000人が参加し、観客約37万8,000人が訪れた本大会は、県内への経済効果が98億9千万円と推計され、多くの方が「する、みる、支える」の多様な関わりを実感した大会となりました。

## 4. 子どもたちのスポーツを取り巻く状況の変化と今後の取組

### (1) 「体育」・「保健体育」について

学習指導要領が改訂され、「体育」、「保健体育」の授業では、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する」ことを重視する観点を引き続き大切にされ、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通じて、『知識および技能』、『思考力、判断力、表現力等』、『学びに向かう力、人間性等』を育成することが目標として示されました。

特に、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう求められます。

今後は、子どもたちの体力向上に向けて取組を継続するとともに、学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業を通して、スポーツの多様な楽しみ方を身につけ、生涯にわたりスポーツに親しむ資質・能力の育成を図る体育・保健体育の授業の充実に向け、教員の指導力の向上を図ります。



## (2) 運動部活動について

運動部活動においては、少子化による生徒数の減少やそれに伴う教員の減少により、団体競技において1校単独でチームを組めない学校が増加傾向にあります。また、生徒数が減少する中で、生徒のニーズに対応した部活動を運営することにより、顧問の配置に苦慮している現状もあります。

このほか、担当する部活動の競技経験がない教員が顧問をしている状況や、部活動指導が教員の時間外労働時間の要因の一つとなっていることから、教員の負担軽減が求められています。

こうしたことから、外部指導者の効果的な配置や、地域の人々の協力、地域のスポーツクラブ等の各種団体との連携が求められています。

## (3) 競技力の向上

ジュニア・少年選手の育成には、指導者の育成及び確保が課題となります。

今後は、ジュニア・少年選手の育成を図るとともに、三重とこわか国体後も継続して三重の競技スポーツを担う人材育成につなげるため、今年度開始した全国初・唯一の事業である「チームみえ・コーチアカデミーセンター」の取組をさらに進めます。

## (4) 2018 インターハイのノウハウを生かした全国中学校体育大会の開催

2020年度に全国中学校体育大会が東海4県で開催され、本県では、陸上競技、バスケットボール、サッカー、体操競技が実施されます。

本年度のインターハイにおける取組を礎とした大会運営を行い、それらの機運を2021年の三重とこわか国体・とこわか大会へ引き継ぎます。

## (5) 地域における子どもたちのスポーツの推進

本県におけるスポーツ推進の課題は、成人のスポーツ実施率向上です。特に子育て世代の女性のスポーツへの参画機会を充実させることが必要です。

子育て期の女性が子どもとともに運動・スポーツをすることで、幼児期の子どもも運動・スポーツに親しむことが期待できるため、母親と子どもが一緒に参加しやすいスポーツイベント等が増えるよう取り組みます。

また、東京オリンピック・パラリンピックへの取組を通じて、子どもたちに夢や感動を与え、スポーツに関心を持てるよう、取組を進めます。